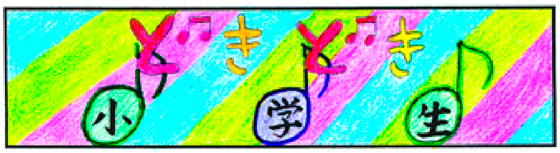
NIE特集
Newspaper In Education
毎月第２・４火曜日発行



山王小

学校名　多賀城市立山王小学校
所在地　多賀城市新田字北320
電　話　022（368）9101
校　長　高橋　守克
児　童　750人

歌詞に芭蕉の心込め

校歌の秘密に迫る！

知り隊

「奥の細道」足跡記す

　「千歳の…」で始まるわたしたち山王小の校歌は、いつも歌っていますが、むずかしい昔の言葉が出てくるので、意味がよく分かりません。そこでわたしたちは、校歌の秘密に迫ることにしました。

　校歌ができたのは1944年で、作詞が賀川英夫、作曲が五十嵐謙二という人です。歌詞はこうです。

「千歳の　古人の心　閲しつつ　旅の疲れを　忘れたる　奥の細道　壺の碑の　畔にたてる学舎は　我らが山王小学校」

　「奥の細道」と言えば松尾芭蕉、では「壺の碑って何？」、わたしたちは、歴史に詳しい多賀城市文化財課長の高倉敏明さんを訪ねました。

取材する子どもたち。右上の堂の中に多賀城碑がある

　案内されたのは、国史跡多賀城跡にある多賀城碑でした。丘の上に立っていて、高さ2㍍、幅1㍍の大きな岩に、古い文字が刻まれていました。「芭蕉の時代は、これが壺の碑と思われていたのだろう。古碑を見た芭蕉は、感激して泣いたそうだ」と高倉さんは話してくれました。

　校歌に出てくる壺の碑とは、みちのく（東北地方）にあったといわれる碑で、昔々から歌の舞台に読まれていました。東北の名所を訪ねながら旅をした芭蕉は、壺の碑も見たいとやってきたのです。江戸（東京）から陸前（宮城）までの道のりは遠く、しかも徒歩なので、大変な旅でした。

　多賀城にたどり着いた芭蕉、その碑を見ると、多賀城の位置や碑を建立した由来などが記されておりました。芭蕉はそのことにとても感心しましたが、碑文の最後にある、「天平宝字六年十二月一日」を見てさらに驚きました。

　「その年号は奈良時代、芭蕉の時代から千年近くも前の時代だ。長い年月の間、風雨にさらされ、こけむしながらも、しっかりと大地に立っている碑を見ることができ、芭蕉は長い旅の疲れを忘れてしまうほど感動したのだろう」と高倉さんは言います。校歌にある「千歳の　古人の心…旅の疲れを　忘れたる　壺の碑」の通りです。

◇　◇

　この話は、芭蕉の「奥の細道」に書かれています。壺の碑は、本当に多賀城碑のことなのかは、まだ分かっていないそうです。でも、校歌の歌詞を調べることで、地域の隠された歴史が分かり、わたしたちも芭蕉のように大感激でした。

文・児玉悠美加、横山敦紀、高橋祐希（6年）

言い隊

■こわい思い 相談して■

　学校の行き帰りに、こわい思いをしたことがありませんか？　例えば、誰かにじっと見られたり、不審な行動をする人に出会ったり。

　ある本によると、こわいことに出会った子どもの25％は、そのこわい思いをだれにも言わないままにしているそうです。つまり、犯罪につながるかもしれないことがらの4分の1は表面化しないで、そのままにされているということです。

　こんな時、大切なのは、子どもが不幸な体験を素直に伝えられる家族がそばにいるかどうかと言うことです。

　私もずいぶん大きくなりましたが、家族の皆さん、これからもいろいろ相談に乗ってください。（6年・佐々木智鶴）

■ことわざ 生活の中に■

　ことわざは、生活の知恵や教え、いましめなどをふくんだ短い言葉で、昔から言い伝えられてきました。昔の言葉が使われているので、わかりにくいこともありますが、意味がわかると、私たちの生活に生かせることがたくさんあります。

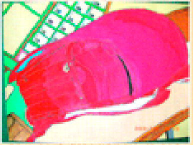
　私の好きなことわざに、「急がば回れ」があります。急いでいるときは近道をしたくなるものですが、それよりもよく知った安全な道を行ったほうが早く着くという意味です。

　私はこのことわざを、「急いでいるときは、あわてずていねいに行動する」と意味を置きかえて、生活の中に心がけています。

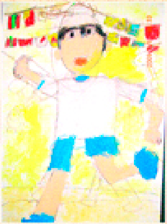
（6年・佐藤美空）

うきうきキャンバス

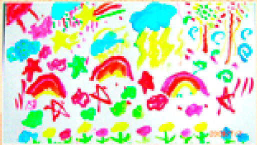
にじ色のちきゅう
3年・安積翼



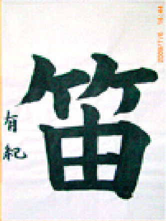
思い出のランドセル
6年・佐々木みやび



かけっこ　1年・小畑柊太



雨のちかみなり　はれ
ときどき　にじ
2年・阿部星奈



習字「笛」　5年・相沢有紀

高い塔　4年4組共同制作

教え隊

ほなみの広場

ほなみの広場で遊ぶ子どもたち

笑顔あふれる遊び場

　山王小の校庭には、「ほなみの広場」という人気の場所があります。私たちの学校が田んぼにぐるりと囲まれているため、黄金色に輝く秋の稲穂のイメージからこのように名付けられました。

　ほなみの広場には、ターザンロープや波乗り、サブマリンといったアスレチックがあります。小高い丘もあり、緑が多いのも特ちょうです。

　休み時間になると、大勢の児童が集まってきます。今日も、みんなの笑顔があふれています。

文・二階堂蒼、奥山康平（6年）

編集後記

　私たちの学校のことを記事にして紹介するということで、本当に自分たちにできるか心配でした。

　初めての取材を通して、これまで何げなく見ていた「壺の碑」が、多賀城に住む私たちにとって、どんなに大切なものであるかを知りました。と同時に、「自分たちが知ったことを誰かに伝えたい」という気持ちになりました。文章で誰かに伝えるということはとても難しい仕事でしたが、それだけにとてもやりがいがありました。

　校歌も、ほなみの広場も山王小にしかないからこそ、これからも大切にしていきたいと思います。

＜編集委員＞横山敦紀、児玉悠美加、高橋祐希、佐藤美空、佐々木智鶴、二階堂蒼、奥山康平、葉谷咲紀、鎌田光輝（6年）

題字デザイン　猪股巴那（6年）

＜指導教諭＞及川理恵、鈴木孝子、五十嵐英明、高野修子、佐々木朝海

次回（８月25日）は、小原小（白石市）と、大谷小（宮城県本吉町）です。

新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。